

# 県育成イチゴ品種の障害果発生を抑制する栽培技術の確立

- 実施期間：令和4～8年度
- 担当部署：野菜部
- 区分：地域密着型研究・県単

## ○研究内容

岐阜県内では、県育成品種が多く栽培されており、県共販栽培面積の80%以上を占めています。近年は、「濃姫」から「美濃娘」への栽培品種の切替えが徐々に進むとともに、平成29年10月に品種登録された新品種「華かがり」の栽培が増えつつあります。

「美濃娘」、「華かがり」ともに収量性が高く、外観や食味などの果実品質に優れているが、収穫果のガクが枯れているガク枯れ症状や果皮が艶のない濃赤色になる黒ずみ症状などの障害果が冬季を中心に発生しており、産地の課題となっています。

そこで、これらの障害果の発生要因を明らかにし、発生を抑制する栽培技術を確認します。

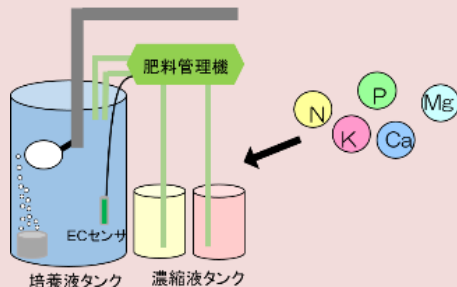
### ① ガク枯れ果の発生を抑制する栽培技術の確立



### ② 黒ずみ果(ツートン)の発生を抑制する栽培技術の確立



栽培条件(施肥、ハウス環境等)の比較から発生要因を解明する



発生を軽減する栽培条件を特定する